

新年あいさつ



副会頭

小牧 由章

四期目を迎えて

副会頭という大役を拝命して、四期目をむかえます。過去三期は右往左往しながらも、自分なりにできる範囲でがんばってきました。力足らずの部分も往々にしてありました。過去三期の反省をふまえ、今期は、会頭の足手まといにならないよう頑張ります。

会頭曰く、敦賀市は今期、正念場である。エネルギー、街づくり、商店街活性化、観光、教育等、問題は山積です。その、一つ一つをしっかりと捉え、農耕馬のごとく、確実に実行できるよう、会頭をフォローし、敦賀の為に頑張ります。



副会頭

室 敬 士

重要課題の解決へ

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族揃って新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私こと昨年11月議員改選期に四期目の副会頭にご推挙され、その責任の重大さを認識し、任期三年を会議所発展のために努力する所存であります。

今期三年は、県政、市政及び当会議所におきましては、諸々の重要課題を解決しなければならない時期と思います。

会員各位のさらなるご指導ご鞭撻を宜しく申し上げます。

【座右の銘】

為せば成る、為さねば成らぬなにごとも、
成らぬは人の為さぬなりけり

上杉 鷹山



副会頭

奥 井 隆

交流人口の増加とまちづくり

新年明けましておめでとうございます。

この度、3期目の副会頭に就任させて頂きました。有馬会頭の元、しっかりと職責を果たせます様頑張って参ります。

本年は、若狭舞鶴道全線開通を待つまでもなく敦賀は、嶺南・嶺北の結節点として、いよいよその重要性が注目されてきます。交流人口の増加に対し、街づくりも急務になります。敦賀の魅力ある地域性を、うまく発信できます様、会員の皆さま方と一緒に頑張っていきたいと思っています。私の仕事柄、食を通じての街づくり、観光にも力を入れていきたいと思っています。



会 頭 有 馬 義 一

皆様、新年おめでとうございます。会員の皆様には、ご健勝で輝かしい新年をお迎えのこと、お慶び申し上げます。新しい年にあたり、今年一年の抱負なりを述べさせていただきます。

皆様ご承知のとおり、日本経済はアベノミクスにより将来の希望がもたされ、海外経済の緩やかな持ち直しや円高修正もあり、デフレからの脱却傾向を呈し、景気も上向き加減となってきました。

しかし、このような状況は、東京などの大都市に限定されたものであり、多くの地方においては、企業収益もままならず、労働市場も大きく疲弊しております。とくに、原子力発電所の稼働停止が長引く、この敦賀にあっては、この地域を取り巻く経済、雇用環境が悪化の一途をたどり、とても将来に希望を見い出せるような状況ではありません。つきましては、このような状況を強く認識し、当面あるいは中・長期的視点に立ち、国や県、市と連携しながら各種の施策を進めてまいりたいと思います。

まず、当面の策としての、一点目は、原子力発電所の再稼働への要請であります。

県や市との同調は勿論のこと、日本商工会議所などと共働しての適時の活動を行ってまいります。

二点目としては、地域内での需要喚起であります。嶺北地域や近隣県からの交流人口を増やし、商店街や旅館、民宿など、地域内での消費拡大を図ります。

三点目は、会員企業の経営力強化に向けた支援の充実であります。従来にも増した濃密な経営相談事業をきめ細かく展開するほか、金融面での支援対策を中心とした経営基盤を強化するための施策を実施してまいります。

次に、中・長期的な立場からは、大きな三つの方向性を考えております。

一つ目は、この地域におけるイノベーションを伴う、新たな産業の創出および構造改革の実現であります。ここ敦賀には、多くのエネルギー関連企業が集積しており、さらに、今、市が産業団地を計画しております。全国各地から、エネルギー全般に係わる先端企業を誘致し、その周辺を地元企業が大きく関与する、と云ったネットワークを構築し、地域内の多くの企業が、原子力の廃炉ビジネスやエネルギーの省力化と云った、新たな分野に取り組み、進出する環境づくりに取り組んでまいります。

二つ目は、敦賀が有する地域のポテンシャルを活かした産業の育成および、これらの産業力による地域の活性化であります。この地は、関西・中京と云う大都市をバックグラウンドとし、前には、成長を続ける東アジアや、豊富な資源を有するロシアを見る。と云った、交通の要所であります。このポテンシャルを活かして、日本海側における陸上、海上物流のさらなる拠点化づくりを進めてまいります。

三つ目は変化する社会、生活環境を踏まえた「まちづくり」の実現であります。今、少子高齢化や商業地の郊外化が進む中、中心市街地の活力が失せるとともに、買い物難民や医療・介護難民などの問題が顕在化しております。ついては、これら課題の解消への取り組みを急務と捉え、地域全体のゾーニングを視野に入れながら、市街地における「元気で活力あふれたコンパクトなまちづくり」の実現、日々の住民生活に欠かせないローカルコミュニティの回復を全力で進めてまいります。

以上のように今年を「将来に向けての礎づくり元年」として、とくに、環境の変化に柔軟に対応する新しい地場産業の育成を目指して邁進してまいります。

かの著名な経営学者ピーター・ドラッカーは、経営者の条件として、「変化を脅威ではなく、機会としてとらえなければならない」と説いております。この地域を取り巻く環境が大きく変動する中であって、我々に今、求められているのは、慣れたやり方の居心地のよさに安住するのではなく、変化を迎え撃つことでもあります。

また、今年の干支は午年（うまどし）です。大空にはばたく天馬のように『変化を日常とし、当たり前』として、今年一年皆さんと一丸になって積極果敢に行動する年にしていこうではありませんか。

どうか、会員の皆様をはじめ、国や県・市および関係の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

結びになりましたが、会員の皆様方にとりまして、今年一年が輝かしい年になりますことを心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。